



近隣住民や関係者が渡り初めをする大安大橋。大垣市大村周辺(空撮協力・サイエンスネット)

大安大橋「吉日」

大垣市と安八町間 住民らが渡り初め

県が整備を進めていた交通量の多い路線が多る県道大垣江南線で、大垣市小泉町と安八郡安八町西結を結ぶ「大安大橋」を含む約2・4キロ区間が18日開通した。同日、同橋で記念式典が開かれ、約700人が渡り初めて完成を祝った。

橋は揖斐川に架かり、長さ約394メートル、幅員11メートル。片側1車線で歩道もある。総事業費は117億円。2001年度に事業を開始し、14年で完成した。近くには国道21号など

県が整備を進めていた交通量の多い路線が多る、大安大橋の北と南に揖斐大橋、大垣大橋があるが、渋滞が頻繁に発生。今後は橋周辺の渋滞の緩和が期待される。

式典には近隣住民や自治体関係者、来賓らが出席。古田警知事は「渋滞の緩和のほか、緊急時は輸送道路となり、さまざまな面で役立つ。県土強靱化と活性化の意味で、今後事業を進めていきたい」とあいさつ。関係者がテープカットを行った後、大垣市と安八町の3世代家族を先頭に橋を渡った。

同線事業は継続し、今後は羽島市、愛知県一宮市を経て江南市へつなげていく予定。